

第1章

PDCA サイクルでの実践

Plan

第1章 PDCA サイクル ～P～

第1節 Plan を行うにあたって

1 子供たちの実態を把握する



実態把握は、どのように行いましたか？

○ 新たに把握方法を作成するのではなく、今、手元にある情報を基に分析し、実態把握を行いました。江田島中学校区では、主に広島県児童生徒学習意識等調査を基に分析しています。ほかにも下記のようなものを参考にすることができます。

- ・意識調査（質問調査）、保護者アンケート
- ・学校評議員からの意見
- ・学校評価（自校評価・学校関係者評価）
- ・教職員の見取りや付箋等を活用した意見交換
- ・全国学力・学習状況調査 質問紙調査
- ・広島県児童生徒学習意識等調査 など

(1)本中学校区における実態把握

令和4年度広島県児童生徒学習意識等調査の結果

領域	内容	小:肯定的評価(県)		中:肯定的評価(県)
		切串小	江田島小	江田島中
生活習慣	学校の授業の予習をする。	53.4		39.1
		42.9	47.2	39.1
課題発見・解決学習	情報の収集 課題を解決するために、進んで資料集めや取材をする。	60.9		48.9
		28.6	44.4	50.0
	その他 生活や学習の中で、これまで学習した内容や学習の進め方を使っている。	82.2		75.3
		71.5	72.3	69.5
	各教科等 授業 自分に合った学習活動などを選ぶことができる。	70.2		60.2
		42.9	72.2	52.1
振り返り 振り返りをするときには、「どこまでわかったか」などを考える。	71.4		72.8	
	57.1	66.7	67.4	
各教科等 授業 めあてと対応したまとめや振り返りをする。	84.3		85.4	
	42.9	72.2	78.2	

※水色…県平均より低いまたは県平均と同じ項目 ピンク色…県平均より高い項目

- ◇ 塗りつぶし部分（黄色）の項目から、児童が探学的な学習をできるように、単元導入において、教材等との出会わせ方を工夫し、学習計画を立てる必要性があることがわかる。
- ◇ 塗りつぶし部分（白色）の項目からは、活動や単元後における振り返りを設け、自分を見つめるための工夫が必要であることがわかる。



◎ これらのことから、本校区においても、キャリア教育に置いて育成する四つの力のうち、「見つめる力(自己理解能力・自己管理能力)」「見通す力(キャリアプランニング能力)」の二つを重点的に取り組み、授業改善をする必要性があることがわかった。

江田島中学校区で育成する四つの力

(※黄色枠:重点的に取り組む力)

見つめる力

(自己理解能力・自己管理能力)

キーワード

- 自己に関するもの
- 自律に関するもの

関わる力

(人間関係形成能力・社会形成能力)

キーワード

- 伝える
- 認め合う
- 協働

やりぬく力

(課題対応能力)

キーワード

- 課題解決に向けて

見通す力

(キャリアプランニング能力)

キーワード

- 仕事・役割に関するもの
- 生活・学習・仕事とのつながり
- 活動・学びの計画性や工夫



育成する力を焦点化したことによって、どのような効果がありましたか？

- 本校区では、指定2年目の3学期に、重点的に取り組む育成する力を二つに絞って取り組み始めました。『児童生徒の課題だからこの力を付けていこう!』と重点化を図ることで、目指す児童生徒の姿が明確になり、校区全体の取組もよりわかりやすく、児童生徒の意識も高まってきたと感じています。



育成する力を学校全体へと広げていく方法には、どのようなものがありますか？

- 誰もがいつでも四つの力を意識できるように、教室や廊下への掲示を行っています。また、学校だよりへ四つの力を記載することにより、児童生徒だけでなく、保護者にも周知し、家庭も巻き込みながら取組を進めることができるように工夫をしています。

(2) 目標を明確に設定する



目標を設定する上で大切なことは何ですか？

- 児童生徒の実態から、重点的に取り組む力を設定すること。
- 小中9年間の発達段階を踏まえて、育成する力の具体を設定すること。



育成する力(基礎的・汎用的能力)の言葉が難しく、その言葉を浸透させることに難しさを感じます…。

- 育成する力をみんなが共有して言えるようにすることが大切です。誰もがいつでもすぐ口に出せるように、わかりやすい言葉で定義すると、育成する力を意識することができます。誰もがいつでも育成する力を口に出せることが、キャリア教育の第一歩になると考えます。また、行事のたびに育成する力を広めると、地域や保護者も巻き込んで、みんなが一体となって取り組みやすくなります。

① 江田島中学校区で育成する四つの力とその具体(系統表)

江田島中学校区で育成する力とその具体			
	見つめる力 (自己理解能力 自己管理能力)	関わる力 (人間関係形成能力 社会形成能力)	見通す力 (キャリアプランニング能力)
中学校	○自分の長所や個性を理解し、自己の向上を図る。 ○自分の夢や目標の実現に向け、自律的な判断に基づいて行動を選択する。	○相手の個性や立場を尊重して話を聴き、自分の考えを伝える。 ○自分の役割を果たすために、必要に応じて他者と協働する。	○将来の夢や目標に向けて努力する。 ○生活や学習と仕事を関連付け、生活や学習の仕方を工夫する。
高学年	○自分の長所や短所に気付く。 ○場面や状況に応じて適切に行動する。	○相手の立場に立って話を聞き、自分の考えを工夫して伝える。 ○他者と協力して物事に取り組む。	○働くことの意義がわかる。 ○生活や学習と仕事を関連付け、今しなければならぬことを考える。
中学年	○自分のよさに気付く。 ○自分のやりたいことやよいと思うことを進んで行う。	○相手の話を聞いて、自分の考えをわかりやすく伝える。 ○友達と協力して取り組む。	○働くことの大切さがわかる。 ○計画を立てることの必要性に気付き、手順を考える。
低学年	○自分の成長や自分が頑張りたいことに気付く。 ○よいこと・悪いことの区別をする。	○自分の考えを話す。 ○友達と仲よくする。	○様々な仕事に興味・関心をもつ。 ○決められた時間内に、準備や片付けをする。
やりぬく力 (課題対応能力)			
中学校	○生活や学習の過程を振り返って課題を見付け、主体的に解決したり次に生かしたりする。		
高学年	○生活や学習上の課題を見付け、最後まで解決しようとする。		
中学年	○周りの人から支援を受けながら、自分の力で課題を解決しようとする。		
低学年	○どんなことにもチャレンジをし、自分のことは自分で行おうとする。		

※ 江田島中学校区では、人として成長を遂げるには「やりぬく力」は土台と成り得る重要な力と考え、三つの力の土台として位置付けている。



系統表作成の際、どのような点に留意しましたか？

- 一つの文章の中に、一つの具体で整理するように留意しました。こうすると、誰にでもわかりやすくなるだけでなく、文末を疑問形に変換するだけで、アンケートの質問項目が出来上がります。それが達成すべき目標となり、評価においても、誉め言葉として具体で児童生徒に伝えることができました。



基礎的・汎用的能力以外に、既に学校で設定している育成する力があり、設定の仕方に困っています…。

- 各校で既に設定している資質・能力や育てたい力などがある場合、まずはキャリア教育の視点で児童生徒の課題を洗い出してみましょ。キャリア教育の視点と既に設定している資質・能力との共通点が明確になれば、既に設定している資質・能力を生かしつつ、新たな目標を設定することができます。



育成する力は、どのように設定するとよいですか？

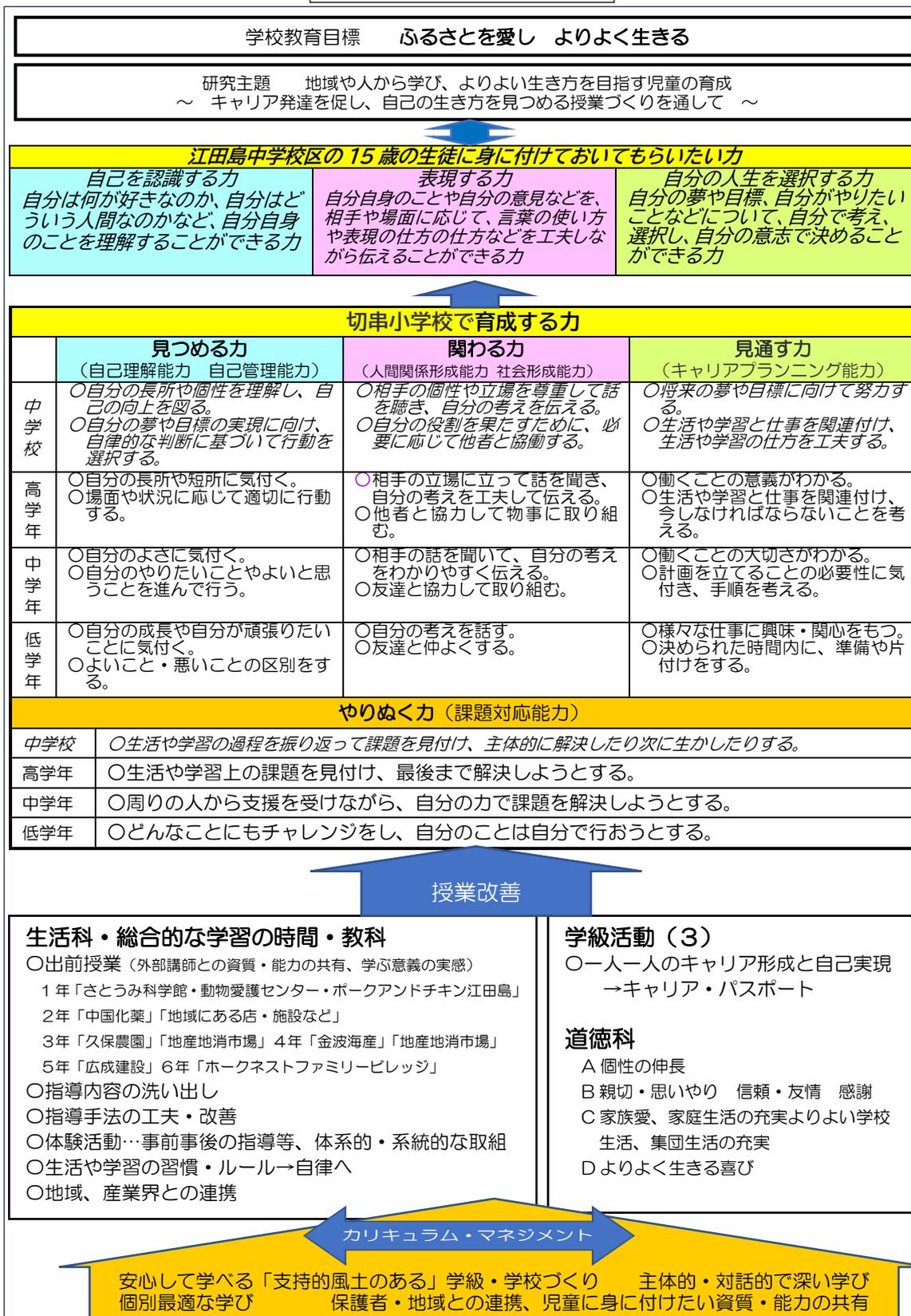
- 児童生徒の課題や意識、家庭・地域における実態などから、キャリア発達を促す上で、課題は何か、どのような力を育成するかなどを検討して目標を設定することが大切です。児童生徒の社会的・職業的自立を目指して、目の前の子供たちに必要な力は何かを、教職員みんなで議論してみましょ。そうすれば、各校の実態に最適な力が設定できるのではないのでしょうか。

江田島中学校区では、「育成する力とその具体」と統一を図り、系統表を作成しています。また、子供にも保護者にもわかりやすく意識しやすいように、育成する四つの力を「**見つめる力**（自己理解能力・自己管理能力）」「**関わる力**（人間関係形成能力・社会形成能力）」「**見通す力**（キャリアプランニング能力）」「**やりぬく力**（課題対応能力）」と設定し、いつでもすぐに四つの力を口に出せるように工夫しました。

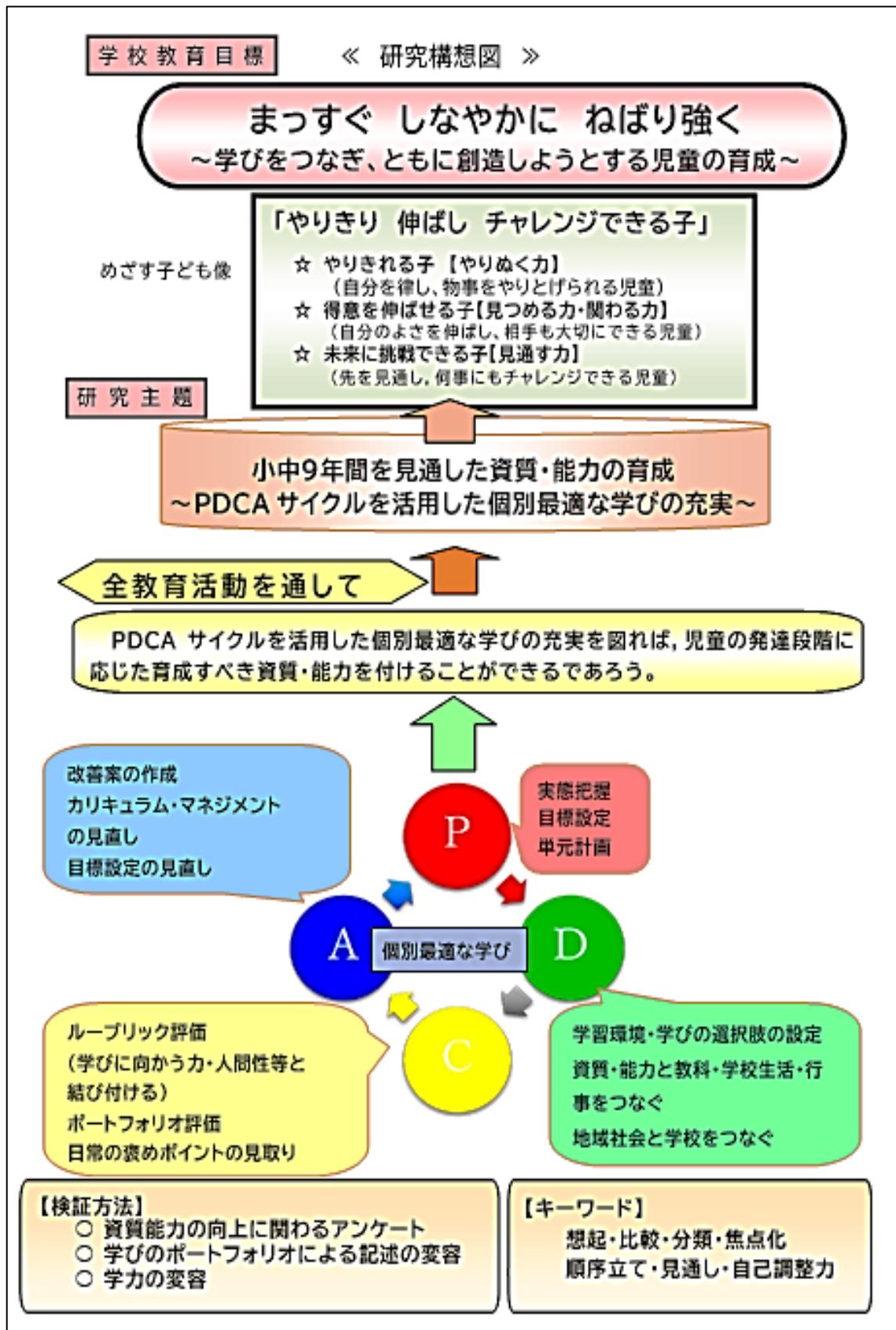
2 実際の研究構想図

【切串小学校版】

切串小学校 研究構想図



【江田島小学校】



【江田島中学校】

